

国際商品市況（6/15～7/17）

原油・銅・鉄鋼原料・穀物

原油は中東情勢悪化と低位な在庫水準で再上昇

2026年 7月 22日

原油（中東情勢悪化と低位な在庫水準で再上昇）	2
主任研究員 伊勢 友理	
銅（中東情勢悪化で反発）	2
上席主任研究員 李 雪連	
鉄鋼原料（鉄鉱石はやや持ち直し、原料炭は下落）	3
上席主任研究員 栞名 奈美	
穀物（中国による米国産買い付けで上昇）	3
主任研究員 浦野 愛理	

原油

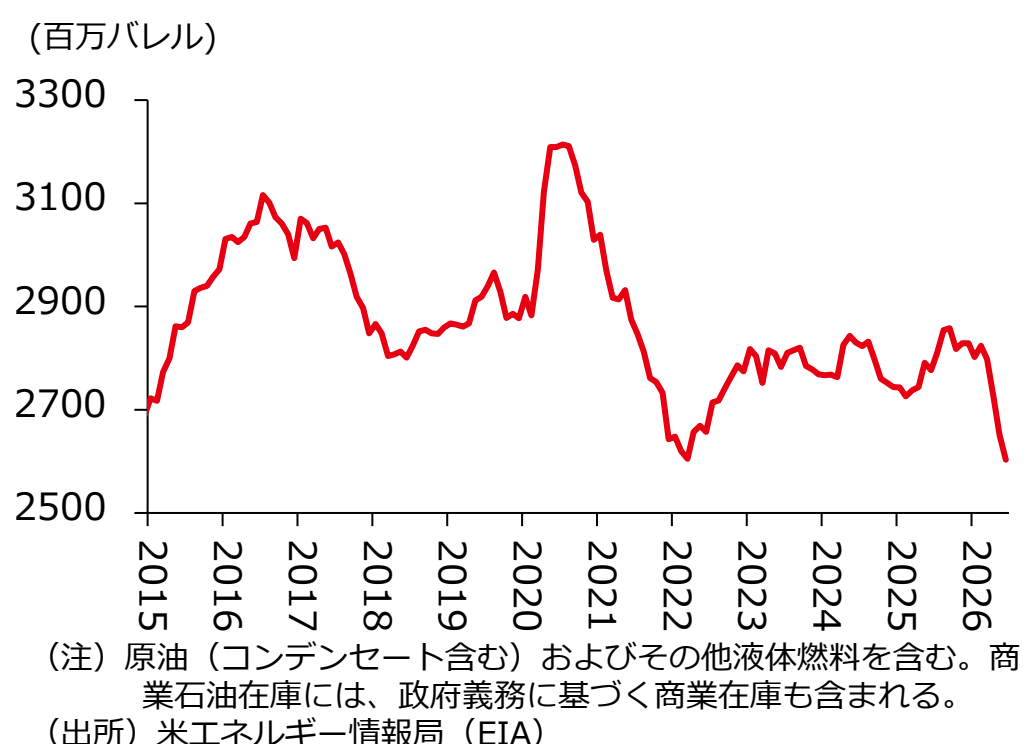
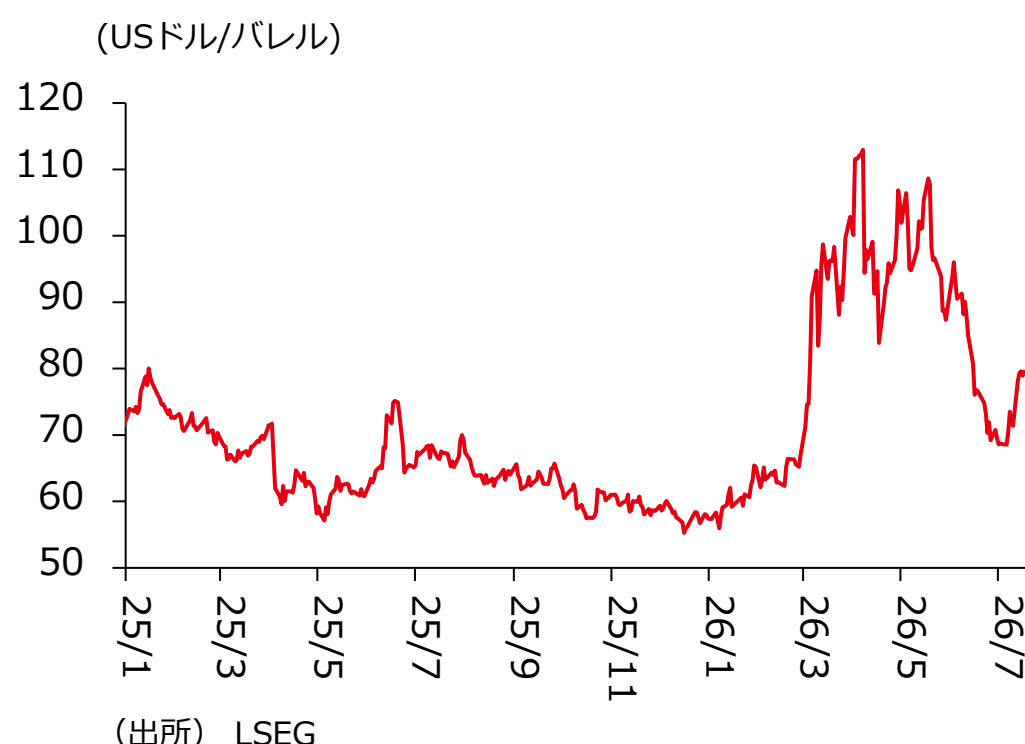
主任研究員 伊勢 友理

足元の動向：WTIは、米・イランの停戦合意でホルムズ海峡の通航量が回復するとの期待から7月初頭に1バレル60ドル台後半まで下落。しかし、その後は両国の軍事衝突を背景に約80ドルまで上昇した。6月の世界石油生産は日量約97百万バレルと紛争前を約10百万バレル下回りながらも、ホルムズ海峡の通航が増加したことから前月比+4百万バレルと一時的に回復。一方、同月の石油消費は日量約101百万バレルと引き続き生産を上回り、在庫の取り崩しによる供給の穴埋めが続く。

先行き：中東の供給を肩代わりしている格好の米国では、WTI先物の現物受渡地点であるクッシング在庫が、さらなる取り崩しが難しいとされる水準まで減少している。また、紛争後に石油輸入を大幅に減らした中国でも在庫の減少が顕著だ。さらに、国際エネルギー機関（IEA）加盟国が3月に合意した4億バレルの備蓄放出も約4分の3が実施済みであり、備蓄水準低下への警戒感から追加放出のハードルは高まっている。世界的な原油・石油製品在庫の減少、中東情勢の悪化、ロシア産石油製品の供給不安を背景に、原油・石油製品価格には上昇圧力がかかりやすい。

▽WTI（期近物）

▽OECD商業石油在庫



銅

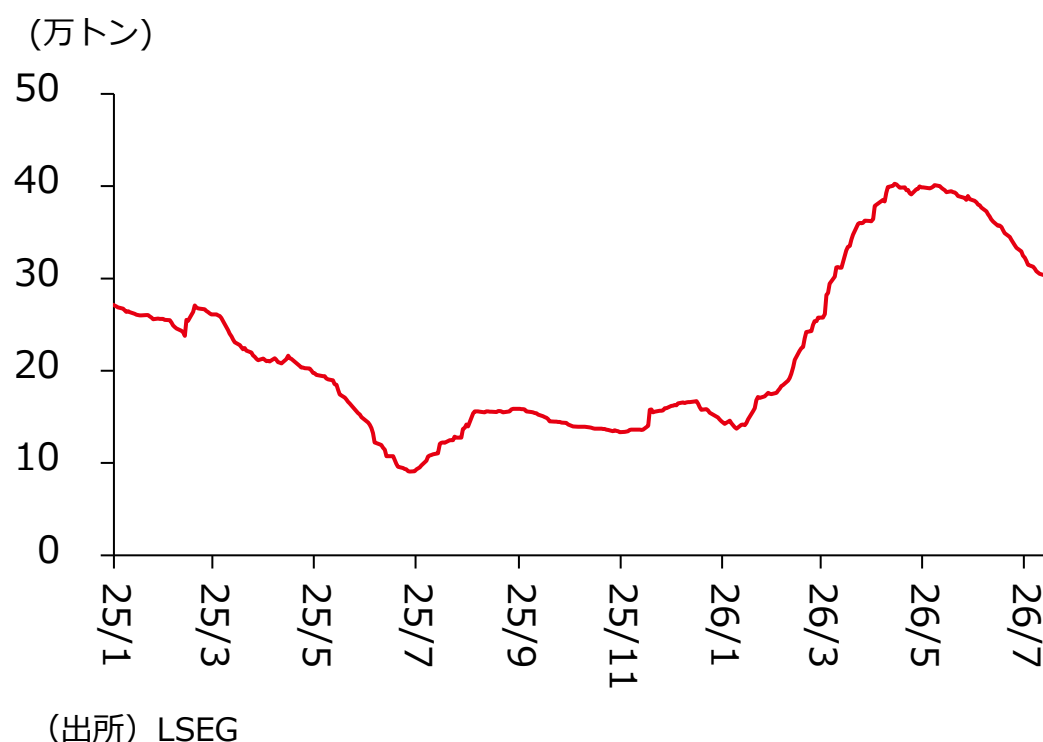
上席主任研究員 李 雪連

足元の動向：銅価格（LME）は、7月初めにかけて高値圏で推移しながらも、一時13,000ドル近辺まで下落した。米・イランの停戦合意で原油価格が紛争前水準まで低下し、銅の採掘・輸送コストの上昇懸念が後退した。しかし足元では、米イラン間の攻撃激化やホルムズ海峡の物流回復の遅れを受けて原油価格が再び上昇し、銅価格も反発した。さらに、米国の6月消費者物価指数が市場予想を下回り利上げ観測が後退したことも支援材料に。

先行き：当面は、中東情勢の行方次第で上下するものの、需給のタイト感を背景に高値圏で推移する見込み。データセンター関連に加え、再エネ導入の拡大や電化に関連する需要が下支えとなる。一方、供給面では、エネルギーや硫黄など副資材の調達難が懸念されるほか、チリでは干ばつに伴う水不足が水使用量の多い選鉱工程を制約。製錬段階でも、中国製錬所の赤字操業が生産を抑制している。インドネシアの鉱山復旧やチリの鉱山拡張が進むも、本格的な供給回復には時間を要する。

▽銅（LME、3カ月物）

▽取引所在庫（LME）



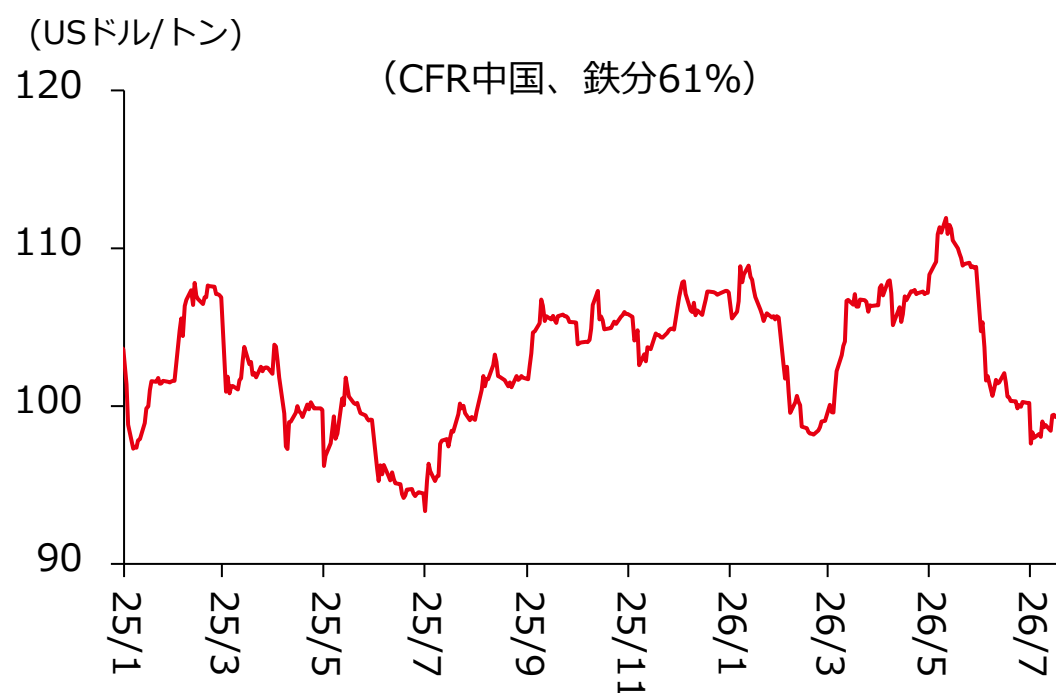
鉄鋼原料

上席主任研究員 桑名 奈美

鉄鉱石：価格は100ドル前後で推移。中国では6月の鉄鉱石輸入量が前年比6%増となったものの、港湾在庫は前年を約2割上回る高水準に積み上がった。供給面では、6月の豪州・ブラジル出荷量が前年比3%減少したことに加え、豪州での労使交渉の難航が供給不安として意識された。今後は、短期では高水準の中国港湾在庫が重しとなり、上値は限られよう。豪州政府は中国の粗鋼生産減少に伴う鉄鉱石需要の減少が供給減を上回ると見込んでおり、中長期でも価格は軟化しやすい。

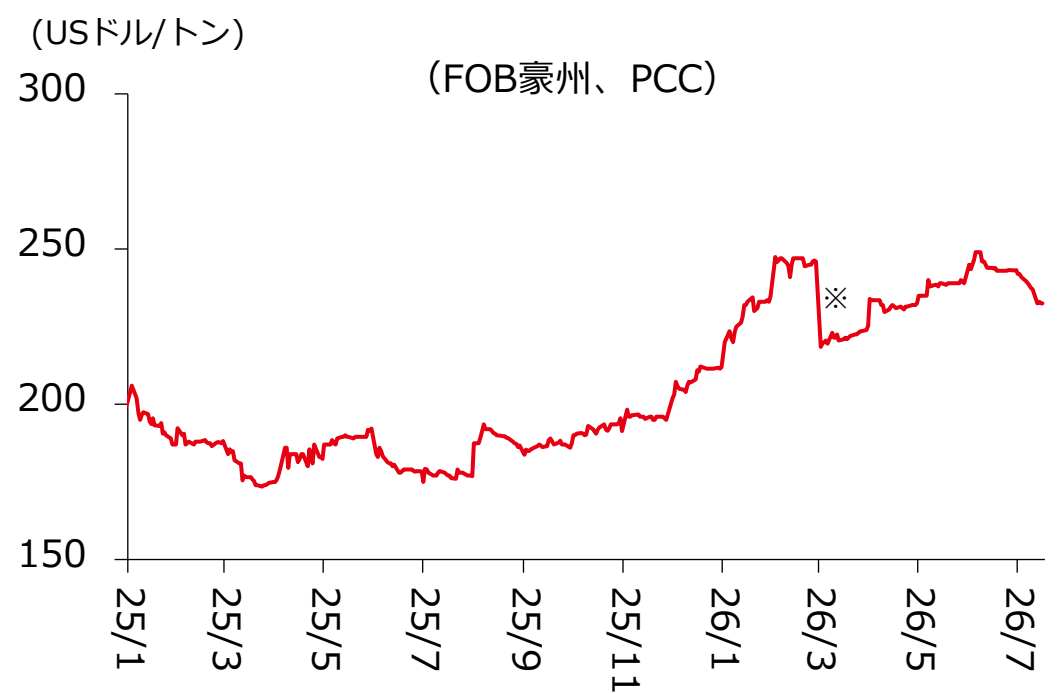
原料炭：価格は230ドル付近まで下落。インドではモンスーン期入りや鋼材市況の軟化を受けて需要が減少し、価格の下押し要因となった。中国では炭鉱事故に伴う供給減を補うため、5月の原料炭輸入量が前年比約5割増となり、6月も増加が続いていた。しかし6月初旬以降、一部炭鉱で操業再開が進んでおり、中国の供給懸念後退が当面の重しとなる。一方、中長期では、インドを中心とした需要増加が供給拡大を上回ることが見込まれ、価格は下支えされる見通し。

▽鉄鉱石（SGX、期近物）



(注) SGX：Singapore Exchange
(出所) LSEG

▽原料炭（SGX、期近物）



(注) SGX：Singapore Exchange
(出所) LSEG ※限月切替の影響を含む。

穀物

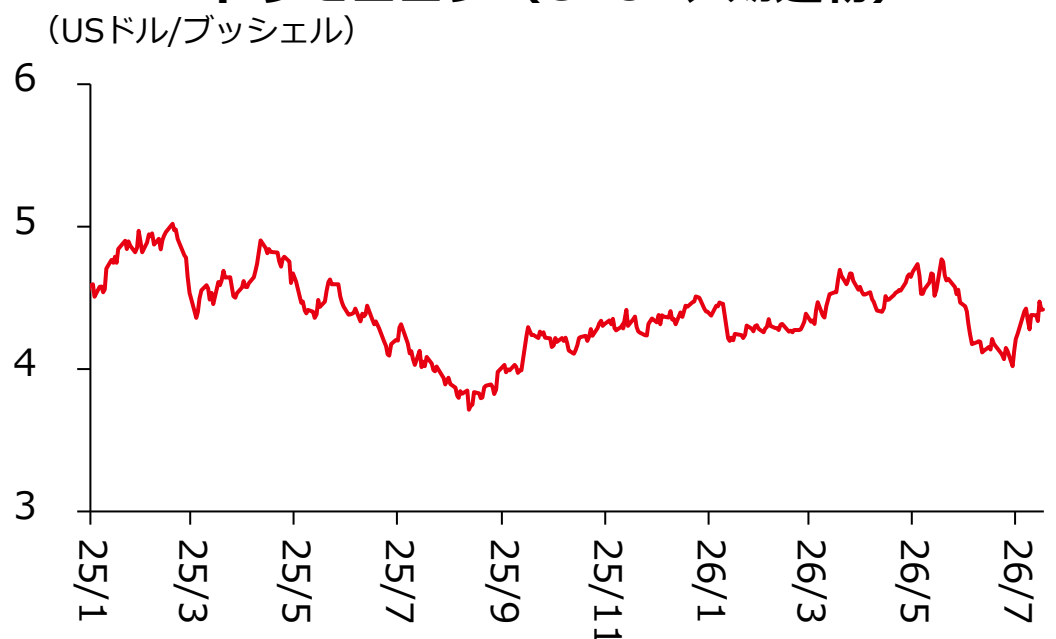
主任研究員 浦野 愛理

トウモロコシ：トウモロコシ価格（CBOT）は、4.5ドル付近まで上昇。米国中西部の高温乾燥予報による生育悪化への懸念が主因。米農務省の7月月報で、2026/27年度の米国産の輸出見通しの上方修正を受けて期末在庫見通しが下方修正されたことも上昇要因に。一方、生産量は依然として高水準の見通しのため、今後も上値は限定的となる見込み。当面は米国産の最終的な収穫量への影響が大きい受粉期における主要産地の天候とそれに伴う作柄状況に左右される展開となろう。

大豆：大豆価格（CBOT）は、12ドル付近まで大幅に上昇。中国の買い付け観測や米国産地の高温乾燥予報が上昇要因に。7月9日公表の週間輸出成約高は2026/27年度の中国向け大口契約が入り、米国産の購入を継続する姿勢が好感された。米農務省の7月月報は、2026/27年度の米国産の生産と輸出の見通しがともに上方修正され、期初在庫見通しは前月から変わらず。当面は着きょう期^(注)における天候が変動要因となる中、中国が米国産の買い付けを継続すれば底堅く推移する見通し。

(注) マメ科の植物のサヤが形成される時期で、この時期の天候が作柄に大きく影響する。

▽トウモロコシ（CBOT、期近物）



(注) 1ブッシェル=25.4012kg
(出所) LSEG CBOT：シカゴ商品取引所

▽大豆（CBOT、期近物）



(注) 1ブッシェル=27.2155kg
(出所) LSEG

(執筆者プロフィール)

伊勢 友理 (Yuri Ise)

ISE-Y@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、日本、原油・ガス

日系金融機関を経て、2021年から丸紅経済研究所。2024年から25年に日本経済研究センターに出向（マクロ経済モデル、時系列データ・パネルデータ分析）。現在は主に日本の政治・経済、原油・ガスを担当。東京大学経済学部卒業。

李 雪連 (Xuelian Li)

xuelian-li@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：中国・東アジア、商品・エネルギー、産業

IT企業勤務を経て2005年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて主に中国・東アジア、商品・エネルギー、産業を担当。講演や取材、寄稿なども行う。2013年から15年まで米国・戦略国際問題研究所（CSIS）に出向し米中関係を研究。早稲田大学アジア太平洋研究科修了（国際関係学修士）。（社）日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト、中国経済経営学会会員。

栗名 奈美 (Nami Kuwana)

KUWANA-N@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：金属、化学、エネルギー、LCA、サプライチェーン分析、市況分析、産業政策分析

日系金融機関を経て、2017年から鉄鋼系シンクタンクにて鉄鋼業を中心に環境・エネルギー政策や技術動向調査・需給分析を担当。2023年から丸紅経済研究所。主に金属・化学・エネルギー産業のサプライチェーン分析や環境・エネルギー政策分析などを担当。LCA学会削減貢献量研究会委員、削減実績量研究会委員。東京大学法学部卒業。

浦野 愛理 (Airi Urano)

URANO-A@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、米国、中南米、日本、穀物

2016年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて国内マクロ経済・金融政策などの経済調査、原油・銅市況や環境・エネルギー政策などの産業調査に従事。現在は米国や中南米などの政治経済、穀物市況を担当。2020年から22年に内閣府（経済財政分析担当）へ出向。一橋大学商学部商学科卒業。

株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。